



平成30年7月10日

## 近代築港の原点・小樽港に学ぶ

～平成30年度 第1回小樽港フィールド・ラーニング（O.F.L）を開催～

小樽開発建設部では、小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工をはじめ、我が国初の近代築港の計画、築造に携わった廣井勇博士（初代小樽港湾事務所長）の工学の考え方等を学び、永い将来にわたって小樽港北防波堤の維持補修のみならず今後の港湾整備に活かしていくことが重要と考えています。

このような趣旨から、本年度の第1回「小樽港フィールド・ラーニング」を、下記のとおり開催しますので、お知らせします。

※ O.F.L.とは、「小樽港（Otaru）で実物を見ながら（Field）習得（Learning）する」の略語です。

### 記

- 1 日時 平成30年7月17日（火）15：00～17：00
- 2 場所 小樽開発建設部 第1会議室
- 3 講演 「北海道築港史—廣井勇と北海道開拓」
- 4 講師 関口 信一郎 氏（北海学園北東アジア研究交流センター特別研究員）
- 5 参加者 自治体及び民間企業の港湾又は漁港の担当者等50名程度
- 6 内容 詳細は、別紙をご覧ください。
- 7 その他 当日、取材を希望される場合は、7月13日（金）15時までに広報官へお知らせ願います。

**ShiriBeshi**  
「世界の後志」を目指して

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

広報官 田中 邦彦 (0134-23-9910)

小樽港湾事務所 計画課長 本間 薫 (0134-22-6131)



小樽開発建設部ホームページアドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>

## 小樽港フィールド・ラーニング（O. F. L）の経緯

小樽港は日本近代築港の原点であり、その第一に整備された北防波堤の計画と実施における、将来の人口や地域の生産量の予測に基づく移出量の推定、他のインフラ整備に呼応した投資の必要性などの計画的観点及び耐海水性コンクリートの製作、波に粘り強い防波堤構造などの技術的観点は、今なお港湾整備の根幹となっています。

小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工をはじめ、我が国初の近代築港の計画、築造を指揮監督した廣井勇博士（初代小樽港湾事務所長）の工学の考え方等を学び、永い将来にわたって北防波堤維持補修について活かしていくことは重要なことであり、かつ、技術力向上に効果的であると考えています。

このようなことから、O. F. Lでは、小樽港（Otaru）で実物を見ながら（Field）習得（Learning）する取組を進めています。

なお、本O. F. Lは、平成24年1月の第1回を皮切りに毎年度開催され、平成28年12月に開催された第6回の小樽港O. F. Lから、北海学園北東アジア研究交流センター特別研究員の関口信一郎氏による「北海道開発の歴史～廣井勇博士の生涯」をテーマにした連続講演（全6回予定）を開催することとしています。今回は「北海道築港史—廣井勇と北海道開拓」と題し、我が国近代港湾工学の確立・発展への貢献について、5回目の御講演をいただきます。



小樽港北防波堤の位置



100年以上現存している小樽港北防波堤



平成29年度 第2回O. F. L（10月開催）の様子